

—探究を通じて自己創造を！ 挑戦する勇気を！—

課題を主体的に発見・思考・解決し、新たな価値を創造できる人材育成プログラムの研究開発

令和6年度SSH中間発表会・運営指導委員会

2024年10月24日

10月24日（木）に、SSH中間発表会を実施し、併せて運営指導委員会が開かれました。中間発表会では、1年文理特進は「SS探究基礎ゼミナール」、2年文理特進は「SS探究専門ゼミナールI」と「総合的な探究の時間」で行っている研究のポスター発表を行いました。当日は運営指導委員の先生方に加えて、保護者、本校教諭など、多くの方々が見学に訪れました。何より、清水中学校から6名の生徒と2名の先生方、才教学園小中学校から3名の生徒と1名の先生をお迎えして発表を頂きました。生徒たちは、この発表会で多くのアドバイスを受け、今後の研究に役立てていきます。

◆講演会「探究学習が大学での研究にどう繋がるのか」「数学の探究の楽しさとは？」

玉木 大先生（信州大学理学部学部長 教授）



『組み紐の幾何学』という本との出会いから数学研究の世界に入られた玉木先生をお招きし、中学生や保護者の方々などと一緒に聴講しました。大学での研究で求められる様々な要素を示して頂き、現在の課題研究の歩みの未来がハッキリと見えてきた講演会でした。

●生徒の皆さんの感想より

- ・学部長の方のお話では、私たちが清流の時間に行っている「探究」が大学の研究とどうつながるのかわけたり、「探究」の難しさを改めて感じました。
- ・SSHの中間発表会に参加して、とてもよかったと感じています。最初の講演では、探究が大学に進学しても大切になることが分かりました。
- ・今やっている探究活動の先に大学での学びがあることが実感できました。楽しみながら大学の準備をできることが分かり、これからも頑張ろうと思いました。

◆SSH中間発表会

発表会の目的は、1年生・2年生ともに探究の進捗状況について発表し、意見交換したり、指導助言を受けたりすることで研究を深めることです。初回となる今回は、中学生の皆さんも参加し、自分たちの探究活動を振り返った上で今後の指標となるような助言を相互に行いました。

より専門的な意見をいただくため、SSH運営指導委員、科学技術振興機構の先生、中学校の先生方などの方々にも来ていただき、文理問わず指導助言を行っていただきました。「専門的見地」からの意見を数多く頂いた皆さんにとって、探究活動がより深化された良いものに改善していけると期待できます。

2025年3月10日（月）実施の最終報告会に向けて、より一層探究活動を深めていってほしいと思います。

●生徒の皆さんの感想より

- ・頑張ってきた探究活動を人に話すことがこんなに楽しいことだと思いませんでした。皆さんが真剣に聞いてくれて、質問も受けて、次にやることがはっきりしました。
- ・された質問に対し答えることが大変でした。必死で考えました。全体が分かっていないと質問に対してうまく答えられないことが分かりました。



◆運営指導委員会

2024 年度運営指導委員の先生方

- ・委員長：巽広輔先生（信州大学理学部理学科化学コース 教授）
- ・副委員長：山田一哉先生（松本大学大学院健康科学研究科 研究科長 教授）
- ・副委員長：北島匡晃先生（長野県長野高等学校 教諭）
- ・委員：秋田真先生（松本大学教育学部 学部長 教授）
- ・委員：森口泰孝先生（公益財団法人科学技術広報財団 理事長）
- ・委員：伊佐治裕子先生（松本市教育委員会 教育長）
- ・委員：藪田由己子先生（清泉女学院短期大学国際コミュニケーション科 教授）
- ・委員：南部高幸先生（KOA 株式会社経営管理イニシアティブ地域価値創造センター ジェネラルマネージャー）

SSH 主任からの本校の取り組み状況についての説明の後、運営指導委員の先生方からご意見・ご指摘を頂きました。課題研究の成功事例やテーマ設定のプロセスの重要性、さらに文理融合の方向性について等、様々な視点からのご意見を頂きました。今回の内容を踏まえ、今年度の SSH 事業の推進に活かしていきます。

最近の SSH 活動

諏訪清陵高校課題研究中間発表会・

長野サイエンスコンソーシアム (NSC)

課題研究研修会に参加 10 月 5 日 (土)

10 月 5 日 (土)に行われた諏訪清陵高校の中間発表会に本校 2 年生 5 名 (2 チーム) が参加し、発表しました。また、見学団として 27 名が参加し、今後の探究への大きなヒントを見出しました。中間発表会終了後には長野サイエンスコンソーシアム (NSC) の「課題研究研修会」に参加しました。清陵高校 43 名、伊那北高校 2 名、松本県ヶ丘高校 7 名、葦崎高校 13 名でと本校の 9 名で分科会に分かれ、発表し、大学の先生方からアドバイスを受けました。研修会での交流や専門家からのアドバイスをこれからの探究活動に生かして行きたいと思えます。

フォッサマグナミュージアム見学

10 月 13 日 (日)、理科の授業で学んだ地質学についてより深く理解することを目的に、19 名が新潟県糸魚川市にあるフォッサマグナミュージアムに行ってきました。フォッサマグナの形成やその地質的な意義について学びました。教科書で学んだ知識を実際に確認し、様々な種類の岩石や鉱物に触れました。

GPS-Academic 解説会 10 月 30 日 (水)

本校では全校生徒を対象に「問題解決のための汎用的能力」を測定するアセスメントテスト「GPS-Academic」を導入しています。今回は、スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 対象の 1 年生文理・特進コース約 200 名がテスト結果についてフィードバック解説を受講しました。本テストは毎年実施し、経年変化を生徒自ら確認して、ワークを通じて目標設定を行います。受講した生徒たちは真剣に、楽しく取り組んでいました。



大学の先生方による特別講義

11 月 5 日 (火) に、信州大学工学部准教授の牛立斌先生より、「地熱発電の現状・課題および研究事例」という題で特別講義をしていただきました。地熱発電の普及のために、物理学、化学、社会学などの多分野の知識の融合が必要だと学びました。

11 月 29 日 (金) には、本校卒業生で、慶應義塾大学体育研究所特任助教授の山口翔大先生をお招きし、「スポーツ科学基礎概論」という題で特別講義をしていただきました。ウサイン・ボルトの速さの秘密から、スポーツ科学と物理学の関係を学びました。



学校法人松商学園

松商学園高等学校

SSH の活動はホームページに掲載されています

<https://www.matsusho-h.ed.jp/>

